

令和四年 統一模試 新中学三年春期テスト (実施時間五十分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は表紙を入れて八ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「QRコードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにはりなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃いものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏名

1 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。

- (1) 明日の天気をヨソクする。
- (2) 美容院をイトナむ。
- (3) 手のこんだサイクをする。
- (4) 斬新な発想に感心する。
- (5) 部屋の飾り付けに凝る。
- (6) 寛大な心を持つ人。

2 次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたとき、総画数が同じになるものはどれとどれか。次の中から二つ選び、記号で答えよ。

ア 確
イ 機
ウ 関
エ 縄
オ 溝

2 次の文章を読んで、あとの1～6の問いに答えなさい。

〔(一)～(八)は段落番号を示す。〕

とにかく農耕こそが、ヒトが地球上で個体数を増やすための重要な^よ拠り所になっているわけだ。しかし、特定の土地において継続して植物を育て続けていると、^①ある^{きた}支障を来して^{くる}。

(一)

生き物は、化学的に見ると数十種類の元素から成り立っている「物質」でもある。植物の場合、その平均的な化学組成を多いほうから順番に挙げていくと、炭素・水素・酸素・窒素・硫黄・リンとなる。最も多い炭素は大気中に二酸化炭素として含まれているし、水素は水に含まれている。そして、酸素は大気と水の両者にたっぷり含まれている。□、多い方から三つの元素については、材料に事欠くことはない。

(二)

ところが、四番目以降の元素、つまり窒素、硫黄、リンなどについては全て、もともと土の中に含まれていたものを吸収している。窒素は大気中に含まれているとはいえ、窒素ガスという、ほとんどの植物が利用できない物質だ。つまり作物を育てれば育てるだけ、土の中から窒素、硫黄、リンが消費され抜けていくことになる。土壌は徐々に^やせていき、いずれこれらの元素は^枯渴する。こういった元素の行き着く先は、とりあえずは人類や家畜の胃袋である。

(三)

もつとも見方を変えれば、ヒトをはじめ全ての生き物は、物質を単に通過させているだけの「システム」ということもできる。人間の場合、今日食べたものは二、三日中に^は排泄される。胃や腸で吸収されい^ったん血や肉となった栄養も、多くの場合数週間から数か月もすれば体外へ排出される。^②成熟した生き物は体重や化学組成がほぼ一定だから、(口から)入っていく量と、排泄物や汗などとして身体から出て行く量が^注バランスしているはずだ。私たちの身体から日々排出される成分とその量は、見た目は大きく異なるものの、日々私たちが口にする

野菜や肉、魚などと同じなのである。つまり、身体から排出されたものを再び田畑に撒いて、次世代の作物を育てるための糧にしようという、日本でも一昔前まで広く行われてきた農業のやり方はきわめて理にかなっている。

(四)

ヨーロッパでは中世になると、人々が集まって暮らす都市が各地で生まれてくる。耕作地で生産された食糧が都市へ運び込まれ、そこで消費されるようになる。そうすると、そこで生じた排泄物は田畑に返されることなく、都市で処理される。つまり、生産と消費が切り離されてしまったのだ。栄養のリサイクル・システムが成り立たなくなる

(五)

と、田畑は徐々に痩せていった。痩せた田畑では、植物が成長するための養分が足りず、十分な質と量の作物が育たなくなる。

③ このような悪循環によって、持続可能な農業は足元から崩れはじめた。増え続ける人口を支えきれなくなってくるのである。実際に、一七〇一八世紀までは当時の先進国であっても、ちよつとした異常気象や疫病が引き金となって飢饉が発生した。現在、急激に人口が増加している発展途上国でも飢饉が起きるから、これは現在進行形の問題でもある。

(六)

農作物の生育にともなう耕作地から欠けやすい順に、窒素・リン・カリウムという三つの元素であることを明らかにしたのは、一九世紀半ばのドイツの化学者ユストゥス・リービッヒである。それ以来、田畑から収穫量を上げるためには、まずは窒素肥料が必須であることは広く知られるようになった。

(七)

それから一世紀近く後の話だが、海でも同様に、窒素が最も早く枯渇する栄養であることが明らかにされた。だから窒素は、この地球上に繁茂するあらゆる植物の量を決める元素といえる。植物の量は食物連鎖を経て私たち動物にとって使用可能なエネルギーを決める。つまり、窒素こそが地球の定員を決めている元素なのである。

(八)

(大河内直彦『地球のからくり』に挑む)による)

(注) 枯渇＝尽きはてて、なくなること。

バランスしている＝釣り合っている。

糧＝精神・生活の活力の源泉。豊かにし、また力づけるもの。

食物連鎖＝生き物同士の「食べる」「食べられる」ものの関係のこと。

1 本文中の□にあてはまる語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア もしくは イ そのため ウ ただし エ けれども

2 線部①とあるが、どのようなことか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 大気中に含まれる窒素を植物が利用できなくなること。

イ 特定の土地においてヒトの個体数が増加していくこと。

ウ 人類や家畜の体内に多量の窒素が蓄積され続けること。

エ 植物の成長に必要な土の中の元素が失われていくこと。

3 線部②とあるが、このような特徴をもつ生き物のことを、筆者は何と表現しているか。本文中から二十一字で抜き出し、その最初と最後の五字を書け。

4 — 線部③とあるが、筆者がこのように考える理由を説明したものと

のとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 各地に都市が出現してきたことにより排泄物が耕作地に戻されなくなり、栄養の循環が途絶えることが多くなったから。

イ 農村では土地が痩せて作物が育たなくなったため、都市で生じた排泄物を田畑に還元する農業に転換していったから。

ウ 都市に暮らす人々が栄養を再び土に戻す従来の農業の誤りに気づき、より効率の良い方法を模索するようになったから。

エ 異常気象や疫病が続いたことにより各地の都市や農村が荒廃し、栄養のリサイクル・システムが成立しなくなったから。

5 (七) 段落について説明したものととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア (六) 段落までに論じられてきた問題解決策に代わって、筆者の提案する独自の解決方法が述べられている。

イ (六) 段落までに論じられてきた歴史的な事実をもとに、今後生じるおそれのある諸問題が示されている。

ウ (六) 段落までに論じられてきた問題に対して、その状況の改善につながる科学的事実が挙げられている。

エ (六) 段落までに論じられてきた現象について、それらを引き起こした原因や背景を多角的に考察している。

6 — 線部④とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。「枯渇」という語を用いて六十字以内で説明せよ。

3 次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

ある人、糸のこをいといたはりけるにや、その主人外より帰りける(小さな子犬)

時、かの糸のこそ膝ひざにのぼり、胸に手をあげ、口のほとりを舐り廻まは

る。これによつて、主人愛する事いやましなり。馬むまほのかに此由このよしを見

て、うらやましくや思ひけん、「あつぱれ我もかやうにこそし侍はんにらめ」

と思ひさだめて、ある時、主人外より帰りける時、馬主人の胸にとび

かかり、顔を舐り、尾を振りてなどしければ、主人是これを見てはなはだ

怒りをなし、棒をおほ取つて、もとの厩うまどにおし入れける。

そのごとく、人の親④をわきまへず、わがかたより馳走顔ちそうがほこそはな

はだもつてをかしき事なれ。我程々に従つて、其挨拶そのむすをなすべき也。

〔伊曾保物語〕による)

(注) 馳走顔 親しい者としてちやほやするように振る舞う事。

挨拶 人への応対。

1 — 線部①「いたはりける」を現代仮名遣いに直して書け。

2 — 線部②「かの糸のこそ膝にのぼり」を意味で区切つたものとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア かの糸の・こそこの・膝に・のぼり
 イ かの糸の・こそこの・膝に・のぼり
 ウ かの・糸のこ・その・膝に・のぼり
 エ かの・糸の・こそこの・膝に・のぼり

3 線部③「かやう」の指す具体的な行為を三十字以内で書け。

4 線部④の□にあてはまる語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 愛 イ 疎 ウ 身 エ 切

5 次は、本文について話し合っている生徒同士の会話である。

I・IIに適当な言葉を補って会話を完成させよ。ただし、

Iには本文中から十字の言葉を抜き出して書き、IIには

あとの選択肢から最も適当なものを選び、記号で答えること。

生徒A 「本文は、子犬と馬に対する主人の態度が対照的に描かれているよね。」

生徒B 「同じことをしたのに、主人は、子犬には『I』とい

う態度なのに対して、馬には『はなはだ怒りをなし、棒をおほ取つて、もとの厩におし入れける』という態度なのがおもしろいね。」

生徒A 「筆者は、本文を通して、II」ということを伝えたかつたのだと思うよ。」

生徒B 「私たちも気をつけなければいけないね。」

〔IIの選択肢〕

- ア 相手に対して乱暴しないよう常に気をつける必要がある
 イ 常に相手の顔色をうかがいながら人に接する必要がある
 ウ 相手に対して常にさわやかなあいさつをする必要がある
 エ 常に相手と自分との関係を考えて人に接する必要がある

4

次の文章を読んで、あとの1～6の問いに答えなさい。

次の文章は、キャンプで出会った十四歳の桐山加奈太、川口見楽留（ミラクル）、海江田竜一、栗木裕也、大垣至、平林光圀たち六人の少年が、キャンプの最終日にそれぞれの思いを語る場面を描いたものである。

「おれが見つけたものも、みんなと同じ友達です。でも友達というより、友情のほうが合ってるかもしれません。これまで、友達のことを本気で『思う』ってことがなかったけど、今回のキャンプでは、友達のことを『思う』自分を発見しました。今までいつも、自分だけが貧乏くじ引いているような気がしてたけど、そんなのはただのわがままだったんだって思いました。みんなひとりひとりに別々の生活があったて、学校に行つて、友達がいて、家族がいて……、そのひとつひとつが大変なことなんだけど、^②大変なのはおれだけだと思つたところがありません。自分だけのことしか考えてなくて、世界におれだけみたいな感覚があつて……、^①だけどそういうのって違うんだと思つた。みんな言わないけど、きつと大変なことや悩みがあつて、きつとおれだけじゃなくて……。」

なにを言っているんだか、自分でもわからなくなつてきた。

「ええよ、加奈太。続けてや。」

ミラクルが言い、

「うん、桐山の言いたいこと、わかるわかる。」

と、海江田がうなずいた。

おれは、コホッと空咳をした。二人の励ましがうれしくて、話を続けようとしたけれど、^③なんだか胸がいっぱいになつてしまった。おれは大きく息を吸つて、一気に声を出した。

「だからあ！ このキャンプに参加できて、みんな仲間になれて、すっごくよかったです！ 以上！」

思いつき声張り上げて、おれは言った。

一瞬しんとしたあとで、大きな拍手が起こった。やべえ、泣きそうだと、思いつつ、無理やり笑って、どすんと座った。

「いいねえ、加奈太。」

^(注) タカさんが言っていて親指を突き出し、おれも負けじと同じように返した。

「じゃあ、次は竜一。」

はい、と返事をして、海江田がすつと立つ。

「おれは、自分より足の速い奴を見つけた。」

いきなりそう言って、ふつと鼻から息を漏らした。

「はつきり言っていてショックだったけど、まあ、自分の実力なんてそんなもんなんだなあって改めて思いました。学校でも、常に成績がトップ10に入ってる人たちは、当たり前前に勉強ができてしまう秀才たちです。そいつらと□を並べるのはキツイけど、走りはもう少しがんばればタイムが伸びそうな気がしました。今度は負けないからな。」

海江田がミラクルを指差す。

「それと、^④友達っているんな奴がいていいんだと思いました。これまでは、自分が決めた基準でしか友達を作ってこなかった気がします。いい経験でした。どうもありがとう。かけがえない仲間ができました。」

そう締めくくって、頭を下げた。かけがえない仲間。海江田ならでは、優等生でキザなセリフだったけど、やっぱり海江田だから許されるのだった。みんなで大きな拍手をした。

「じゃあ、最後は見楽留。」

ミラクルが立ち上がる。

「このキャンプで見つけたものはたくさんあります。あんなに大きなヤドカリやオオジョロウグモを見たのははじめてでした。幻想的なガジュマルの木や、大きなお墓もはじめて見ました。あとは^(注)天徳島の星空。明るい月。きれいな海。くつきりとした水平線。飛び込みのたのしさも発見でした。」

標準語で話すミラクルの言葉のひとつひとつに、おれはうんうんとうなずいていた。つい昨日までの出来事なのに、遠い昔の思い出みに頭に浮かんでくる。

「具体的だな。それだけでいいか。」

タカさんが言葉を挟む。ミラクルは首を小さく横に振って、今度は聞き慣れた大阪弁で一気に続けた。

「海江田竜一は素直で憎めん。栗木裕也は話しやすくてもおもしろい。大垣至は強くて男らしい。平林光圀は、えらいやさしゅうて信心深い。桐山加奈太は感性豊かで賢い。以上、五人の友達の尊敬できるところを見つけてました。」

少しの沈黙があった。

「川口見楽留は、リーダーシップがあつて足が速い。」

突然、海江田が言った。

「思いやりがある。」

と、おれは続けた。

「笑いのセンスがある。」

と大垣が言って、

「兄貴と弟が有名人。」

と、栗木が笑った。

「それとね、ミラクルはなんでも知ってるよ。ものすごい物知りなんだ。それに、うんとやさしい。いつでもみんなのことをちゃんと見てるんだ。」

光圀がうれしそうに言った。

おれは、また胸がいつぱいになってしまった。ミラクルのいいところを、みんながちゃんと知っていることが、とてつもなくうれしかったのだ。

ミラクルのことだけじゃなくて、ここにいる六人のいいところを、きつとみんなが互いに知っている。みんなの言葉を聞いて、ミラクルは唇をきゅつと結んで直立していた。

「以上でいいか、見楽留。」

「あ、あともうひとつあります。」

「まだあるんか。」

タカさんの言葉にミラクルがうなずき、みんなが注目する。

「恋を見つけました！ 初恋です！」

ミラクルが言った瞬間、やんややんやの大騒ぎになった。びっくりした。まさかみんなの前で自分から発表するなんて。エマへの恋はみんなにバレていたけれど、それでもミラクルにとって、とても大切なものだったはずだ。

みんなと一緒に騒いでいるミラクルを見る。ああ、そうか。最後に、湿っぽくならないように、ミラクルはわざとおどけて言ったのだ。今度こそおれは胸が熱くなって、まぶたがじんとした。天井を向いて目をしばたかせる。かっこよすぎるじゃないか、ミラクル。

（榎月美智子「14歳の水平線」による。一部省略等がある。）

（注） タカさん＝キャンプの責任者。

天徳島＝加奈太の父親の故郷。この物語上の架空の島。

エマ＝天徳島で出会った、加奈太たちと同じ十四歳の少女。

1 本文中の□に最もよくあてはまる体の一部を表す漢字一字を書き、慣用句を完成させよ。

2 線部①「その」の品詞として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 名詞 イ 形容動詞 ウ 副詞 エ 連体詞

3 線部②とあるが、この桐山加奈太の気持ちと同じ気持ちが表現されている部分を本文中から十四字で抜き出して書け。

4 次の文は、線部③における桐山加奈太の気持ちについてまとめたものである。Ⅰには五字、Ⅱには八字の言葉をそれぞれ本文中から抜き出して書き、文を完成させよ。

自分に話を続けさせるために声をかけた川口見楽留と自分への共感を示そうとⅠ海江田竜一との様子から感じる、自分に対する二人のⅡで、感情が高ぶった。

5 線部④とあるが、このとき海江田竜一が気づいたこととして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 自分の基準に相手の基準を合わせてもらうこと。

イ 自分の決めた基準で相手の良いところを探すこと。

ウ 自分の決めた基準から外れた相手でも受け入れること。

エ 自分の基準と相手の基準との共通点を見つけること。

6 線部⑤とあるが、桐山加奈太はどのようなことから川口見楽留の行動をカッコよすぎると感じたのか。「大切なもの」という語句を用いて□に四十字以上五十字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

川口見楽留が、仲間との□こと。

5

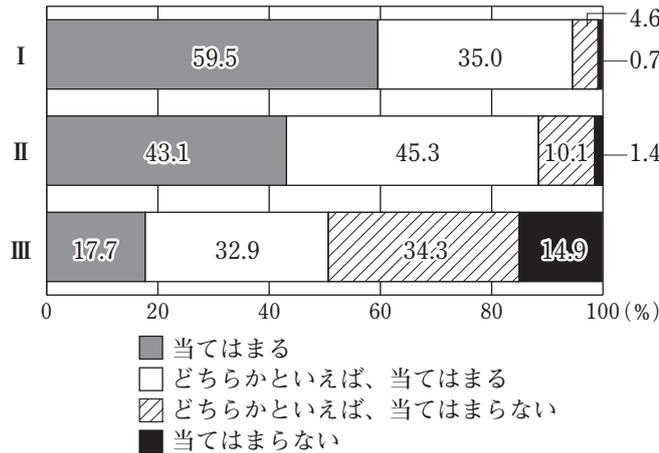
次の資料は、全国の中学校三年生を対象に行った調査の中の、友達との話し合いについての質問と、その質問に対する回答結果をグラフで表したものである。この資料を見て気づいたことと、そのことについてあなたの考えや意見を、後の(1)～(4)の条件に従って書きなさい。

資料

質問 次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。

- I 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞ける」
- II 「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて自分の考えを持てる」
- III 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」

回答結果 (無回答などがあるため、合計値は100%とらない)



(文部科学省 国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査」より作成。一部改変等がある。)

条件

- (1) 二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
- (2) 第一段落には、資料を見て気づいたことを書くこと。
- (3) 第二段落には、気づいたことに対するあなたの考えや意見を書くこと。
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。